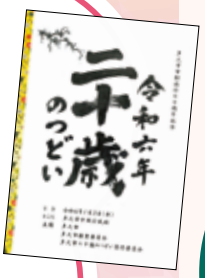
実行委員会の手で〝大切な一日〟をプロデュース



▲パンフレット表紙

▲パンフレット裏表紙

今年も人生に一度きりのこの日をより素晴らしいものにしようと立ち上がった「多久市二十歳のつどい実行委員会」。実行委員に手を挙げた７人が市内外での学業や仕事の傍らオンライン会議を重ね、企画から準備、当日の進行まで行いました。

地元組と市外組とで分担しながら晴れやかな式典に備えた実行委員のみなさん。「大切な一日をみんなが楽しめるように、懐かしい先生からのメッセージビデオを作ったりSNSで見た写真映えするフォトスポットを設置したりと、細やかに工夫を凝らしました。今日を節目に、みんなが二十歳を楽しんでくれたら嬉しいです」と笑顔を輝かせました。

家永さんが７年生の頃から親しむクラリネットを披露。美しい音色がホールに響き、温かい拍手が送られました。

曲目 『始まりの唄』
『見上げてごらん夜の星を』

実行委員会のみなさん

〈右から〉
鈴田 魁斗（すずた かいと）さん
小柳 孝輔（こやなぎ こうすけ）さん
家永 咲葵（いえなが さき）さん
三瀬 稀凡（みつせ きほ）さん
江打 ひかる（えうち）さん
豊川 小太郎（とよかわ こたろう）さん
津藤 瑞希（つどう みずき）さん

二十歳の誓い

東部校区
豊川（とよかわ） 小太郎（こたろう）さん

義務教育を終えてからの５年間は決して楽しいことばかりではなく、どちらかといえば忍耐という言葉が浮かびます。そのなかで自分自身と向き合って考えた道に進めていることがとても嬉しいです。

今は多久市を離れて生活しており、帰省するとふるさとの温かさを感じます。誰も予測していないことさえ起こる世の中です。どのような状況になっても、社会の一員として責任ある行動を心掛け、感謝の気持ちを忘れず、強く正しく進んでいきます。

西渓校区
三瀬（みつせ） 稀凡（きほ）さん

私たちは無事に「二十歳の集い」を迎えることができました。久々に友人と再会し、毎日汗を流した部活動、おいしく楽しく食べた給食など、懐かしい思い出がよみがえってきます。

高校１年生から新型コロナウイルスが流行し、文化祭の縮小、修学旅行の中止など、当たり前だと思っていた日常が当たり前ではないことに気付かされました。これからの人生でもたくさんの困難があると思いますが、支えてくれる人がいることを忘れずに過ごしていきます。

中央校区
津藤（つどう） 瑞希（みずき）さん

気持ちの昂りと緊張を覚えつつ、二十歳という人生の節目を迎えました。

さまざまな変化への順応が求められるなかで、私たちは一人一人、その人にしかない人生を送っています。これから先も予想外の出来事や困難に遭遇するでしょう。そんな時は顔を上げて前を向き、自分をしっかりと持って、周囲の人にも気を配った責任ある行動ができる大人になりたいです。

お互いに協力し合い、磨き合っていけば、想像以上の輝きになると確信しています。